

「18歳選挙を通じて」

門司大翔館高等学校 大本 邦大

毎年、誕生日がきても私はあまり関心を持たないタイプの人間でした。15歳から16歳になろうと16歳から17歳になろうと大してその違いが分からなかったからです。しかし、今回の18歳の誕生日は私にとって、とても衝撃的な出来事でした。

選挙権が私に与えられた……。私宛ての通達書を読んで初めて、その事実が私の頭と胸に響きました。と同時に強い責任感を感じ、気づけばインターネットを駆使して情報を集め、普段開きもしない新聞を隅々まで読み漁る自分がいました。そして今さらながら自分の視野を日本全体に向けた時、私は何一つ日本の事を理解していない事に気づきました。私は、どうしようもなく日本という国、日本の政治のあり方に無関心だったからです。

私が中学生だった頃、アメリカからALTの先生として来日し、英語を教えてくださいました先生は、ある日、私達に先生の母国であるアメリカについて色々と話をしてくれました。自分の国の文化の事、思想の事、国歌の事……。片言の日本語で話す先生はとても楽しそうで、自分の国が好きだ、自分の国を誇りに思っている、とおっしゃっていました。しかし、先生はそこで私達に問いました。「君達が日本について誇りに思う事は何か」と。私達は自信をもって答える事が出来ませんでした……。思えば私達は今、国歌を大きな声で歌えるのでしょうか。日本人の一員として自信をもって生きているのでしょうか。私達は日本を愛しているのでしょうか。

今回、私は選挙権を行使するにあたりその一票に、日本の未来と、私の希望を強く込めてきました。日本は民主的な「国民主権」の国であり、国民によって創られる国です。日本の未来の在り方は私達全員の意思で決まります。そうである以上、私達日本国民は一人も余すことなく、日本の政治に無関心でいるべきではないのです。そして、私達一人一人が真剣に日本の将来について想いを馳せて、選挙権というかけがえのない権利を行使することが、よりよい日本、誇らしい日本の実現につながっていくと私は考えます。

私は今回の貴重な経験、そしてそれと共に気づき、考えたことをこれからも大切にしていって、日本のあり方・政治のあり方に関心を持ち続けていきたいと思えます。